第１回　河内長野市学校教育のあり方検討委員会　会議録

令和７年７月２２日（火）午後７時００分より

市役所５階５０１会議室

１．開会

２．委嘱状交付

３．教育長あいさつ

４．委員会委員紹介

５．検討委員会について

６．会長・副会長互選

７．会長あいさつ

８．諮問

９．審議の内容と検討委員会の進め方について

10．その他

11．閉会

１．開会

・事務局より会長及び副会長選出までの司会進行の案内説明

２．委嘱状交付

・教育長より委嘱状の交付

３．教育長あいさつ

・教育長より学校教育のあり方検討委員会開催にあたりあいさつ

４．委員会委員紹介

・委員の自己紹介と事務局の紹介

５．検討委員会について

・事務局より、「学校教育のあり方検討委員会設置条例」に基づき、検討委員会についての説明。また、同委員会は公開であることを説明

６．会長・副会長互選

・事務局より、会長及び副会長の選出について、条例第４条第１項により、委員の互選により選出する旨を説明

〇委員より、水本委員を会長に推薦

〇委員一同異議なく、水本委員が会長に選出

〇水本会長より、片山委員を副会長に推薦

〇委員一同異議なく、片山委員が副会長に選出

７．会長あいさつ

・水本会長より、会長就任のあいさつ

８．諮問

・教育長より諮問書の交付

■諮問事項

学校が小規模化する状況において、平成３１年４月策定の「河内長野市学校のあり方の方針」を踏まえた今後の学校施設配置のあり方と方策について

①学校の更なる小規模化による学校施設への影響と対応

②学校と地域との連携

９．審議の内容と検討委員会の進め方について説明

・資料１から資料１０について事務局（山崎教育総務課長）より詳細を説明

・資料１１について事務局（篠崎学校教育課長）より詳細を説明

水本会長

事務局からの説明が終わりました。事務局の説明から児童生徒の人数が減少していること、また、現在でも小規模化に対応した教育がなされていることがわかりました。現在の「河内長野市学校のあり方の方針」では、小規模校を現状のまま存続させる限度は、小学校では複式学級になる段階、中学校では６学級を下回り単学級が生まれる段階を一定の目安とするとなっているという説明がありました。

現状、天見小学校が複式学級になる可能性があること、中学校においてはすでに単学級になっている学校が複数校あるということでした。また、現在の「河内長野市学校のあり方の方針」では人口減少や少子化などがさらに進み、子どもたちの教育に顕著な影響が生ずるおそれが出てきた場合、統廃合についても検討するとなっているということでした。事務局の見込みでは、児童生徒数が今後も減少傾向をたどるということが先ほどの説明からでもわかったわけですが、事務局の説明内容も踏まえまして、皆様からご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構でございますが。

東委員お願いいたします。

東委員

私は天見地区に住んでいまして、子どもの状況は市内地域によってそれぞれあると思いますが、天見地区では地元の子どもの減少が小規模特認校に認定される前からの課題となっています。天見地区は市街化調整区域であり、住宅開発にさまざまな制限があって母家や隠居以外は建てられない地域なので地区外への転出に繋がっ

てしまう現状がある一方、自然がいっぱい詰まった学校の中に川が流れ、川の生き物探索、地元の方々の協力で田植え体験や林業体験などの自然との触れ合い、先生も子ども一人一人に気配りができる利点から、地域全体の思いで学校存続の活動を行い、行政を動かして平成１２年から小規模特認校として認定され現在に至っています。

天見小は天見駅近くであることを活かした小規模特認校で河内長野市内全域から電車通学しています。通学費は自己負担になります。現在の地元の子どもの状況は私が住む上岩瀬地区では０歳から１５歳までは１３名です。私の近所にも子どもがいる家庭が新築して戻って来てくれましたが、将来的には地元の子どもはいなくなる危機感もあります。少人数では競争力に欠けるとか染まりやすいとかデメリットはありますが、天見小は少人数を生かし１年生から６年生までの縦割り班で校外学習に行きます。一例として、てくてくテーリングを実施して天見地区自治会の協力をえて、天見駅周辺と千早口駅周辺を毎年交互に歴史的施設等を回って地元の方から説明を聞き、地域の方々とのコミュニケーションがうまれています。このような活動によって、高学年はリーダーシップを発揮し低学年をサポートしている姿を見て責任感や自己肯定感の向上と幼児の行動の模範となって低学年にやさしく教えることで思いやりの心を養い、他者との関わりを学んでいることが見受けられています。ほかにも運動会のように子どもたち・保護者・地域の方と一体になった行事や天見小まつりは子どもたちが企画し縦割り班でお店を作り保護者や地元の方々が見学に来てもらって楽しんでもらうイベントがあります。たくさんの事業で子どもたちも保護者や地域との触れ合いができる魅力がある小学校の存続が必要であると考えます。市内全体でこのまま子どもの減少が続けば、教育に影響が出る恐れがあると思います。統廃合だけでなく、何か、次の方策を考えなければならないと考えます。以上です。

水本会長

ありがとうございました。全国的には他にも小規模特認校の特色を出して学校運営されているところがたくさんございます。ご意見いただいたように天見小学校でも、地域の方がいろんな形で学校教育を盛り上げています。

その他、何か意見ございますでしょうか。中谷委員。

中谷委員

先ほどからお話に出ていますように、施設一体型小中一貫教育推進校ですが、昨年の南花台に引き続きまして美加の台では令和９年４月に開校の予定で、来年度から現在の中学校で工事にはいる予定になっています。現在の中学校が増築の工事がされる一方、現在の小学校がどういう形で残されるか今後の課題になっています。

学校運営協議会と学校の関わり方ですが、私は中学校の学校運営協議会の会長と小学校の学校運営協議会の委員をしていまして、小学校学校運営協議会と学校の関わり方というのは小学校の授業の中に我々が入っていくわけです。例えば、美加の台小学校でいいますと、わくわく倶楽部やいろんなワークがあり、学校運営協議会と一緒にするプランがあって百人一首をしたり、モルックをしたり、ボッチャをしたり、缶バッチ作ったり、将棋をしたり、そういうことで授業の中に入って活動をしています。ところが、中学校のほうは授業に入るのではなく、休み時間や就業後に例えば美加中ファームで一緒に野菜を作ります。また、入試が迫っている中学校３年生の１月に模擬面接を行います。私立で面接試験がある高校があるため、我々が面接官となって練習をします。面接試験のない高校もありますが、人生の中で就職したり、面接試験をうけることは必ずあると思いますので全員模擬面接をやっています。

今後、学校のあり方を検討していく必要があると思うのですが、小学校と中学校は分けて考えたほうがいいかなと考えています。以上です。

水本会長

ありがとうございます。学校教育というのは地域の皆さんの協力なしではなかなか運営していきにくい側面もございます。今お話しいただいた美加の台小中学校の事例は先進的な事例だと思います。また、今後の小学校と中学校のあり方を検討する場合は、小学校と中学校を分けて考えるというご意見をいただいています、ありがとうございます。

その他ご意見はございませんでしょうか。どなたでも結構です。井之上委員どうですか。

井之上委員

私の子どもが通っている三日市小学校では児童数が多いので、児童数が少ない学校の現状はこういうところがデメリットなのかっていうのは、具体的に想像できない部分があります。児童数が多い小学校だとクラス替えになったときに「どうなるんだろう、誰と一緒かな。」といった楽しみがあります。運動会も人数が多いとやはりその分盛り上がることもあるので、想像がつきやすいと思います。あとは施設一体型小中一貫校になったときに、どういう問題があるかということですが、南花台の小・中学校に通わせているお子さんがいる家庭の方から聞いたのですが始業式がすごく長かったと話していました。中学校の先生と小学校の先生とお話があって、すごく長いということは聞いていました。あとは同じ校舎にずっと通うから子どもたちが飽きてしまわないか、中学校になって別の環境になることは不安はあるけれども、楽しみでもあるので、ずっとそこに通うのか、それとも他の私立中学校の受験も考えてみようかという方もいらっしゃったりすれば、そこの中学校の魅力が試されているのかと思います。

中学校になったら部活動を頑張りたいという子もいますが、学校が小規模化すると、なかなか部活動って難しい部分もあると思います。経済的余裕があればクラブチームに入るといった選択肢もあるとは思うのですが、なかなかそういうのって全員ができないので地域の中学校で部活動して、いろいろ経験できることはありがたいことなので、これもどうか考えていけたらいいかと思います。

水本会長

今始業式の流れがありましたけど、これは学校運営の見直しで学校の裁量で改善できることだと思います。また、クラブ活動は全国的に文部科学省の方針で地域に移行という流れができている中で、どの生徒にも機会を保障していくということを今後どちらの市でも取り組まれていくことと思われます。さまざまな課題点があるので不安な部分があれば、いろいろ出していただければと思います。

他どうでしょうか。米谷委員何かございましたら。

米谷委員

先ほど井之上委員がおっしゃったとおり、私も学校の授業の内容は充実していると思います。私らが小学校や中学校の時よりも充実していると思っているのですが、

その反面、学校が終わった後のクラブ活動の選択肢が狭くなっている。こんなクラブ活動に入りたいけど今の学校にはない、でも、よその学校にはあるといったことがおこっています。通っている中学校によって自分のしたいクラブ活動ができるけど、生徒数が少ない学校の場合はしたいことができないことがあるということは少し寂しいと思います。自分の住んでいる校区に入りたいクラブ活動がないのであれば、そのクラブ活動がある学校の部活動に入る仕組みができないかといった支援ができないのかと思いました。

水本会長

部活動については先ほど申し上げましたけど、地域へ移行するというだけではなく、今おっしゃっていただいたように部活動がある学校に一緒に参加させてもらうというような合同部活動のような形もどんどん実施している部分がございますので、いろいろ保護者の皆さんの意見をもらう中で、それぞれの学校か、また、教育委員会の方でさらに前に進めていくということで考えていただける部分だと思います。

今回の学校施設の検討のところから切り離して、今後充実していける部分だというふうに思っております。部活動に関しては我々の育った時代、あるいは私たちが若い教師だった時代とは随分変わってきたと思います。

中谷委員

美加の台もクラブ活動が非常に少なくなっています。その影響があるかわかりませんが、今年の３月に小学校卒業した児童数が５３人、４月に中学校に入った生徒数が４０人、１３人が他の私立に行かれました。学校運営協議会としたら、「美加の台中学校に行きたいよな。」という関わり方をしたい。それが我々の役目かなと思います。

水本会長

その他、ご意見ございませんでしょうか。

森委員

現在は小山田小学校に在席しています。小学校として小規模化した場合にどうな

るのかということですが、私はコロナ禍で最初に緊急事態宣言が発出され子どもたちが学校に通うことができなくなった４月から単学級の高向小学校に配属になりました。教頭を一年やりまして、その後、校長になりましたが、その時に単学級であることのほかに職員数が少ない状況でした。その中で広く考えたいということや、あるいは､他からの刺激を受けたいというニーズがあるようなことを実感しました。コロナ禍で少しずつ外と交流できる段階になってきた時期にＩＣＴ環境が整っていきました。河内長野市は府内で環境整備が一番早かったかと思います。オンライン会議はもちろんですが、子どもたちもオンラインで繋がった状態で、日常の相談や交流活動ができる環境が整ってきまして、近隣の小学校と単学級の教員も子どもも人数が少ないデメリットをなんとか打破できないかということで、西中学校区に高向小学校と天野小学校の２校あるのですが、天野小学校と合同の学年会議を開くことを始めました。小小連携を子どもたちは実施してきたのですが、実際に顔をあわせて行事をできないときに、子どもたちがやってきたことと同じように学校の教員も連携していこうということで、合同の学年会議を低学年・中学年・高学年に分けて実施しました。コロナ禍の中知恵をだしあって考えるという経験が非常に今に生きていると思います。その時の経験から学校の小規模化のデメリットを補うさまざまな工夫ができるということはわかってきたかと思います。あとは、おっしゃるように縦割り活動や子ども自身が自主自立して行うような特別活動の取組みは異学年交流を重視して実施しています。

教員の人数が少なくなると出張に出ることが難しいことがあります。資料の１０にまとめていただいているのですが、出張に関しましてもオンラインでの会議システムを使って、会議に出席できるようになってきていますので、本当に４、５年前の状況とは一変したかなと感じています。確かに学校が小規模化したときのデメリットはあると思いますが､そこを今良い方向に変えていっていると実感しています。

水本会長

ありがとうございました。上田委員どうでしょうか。

上田委員

自分は現在東中学校に在席しています。河内長野では大規模校になるのですが、今年の３月までは西中学校に在席していました。西中学校の全校生徒数は東中学校の１学年の生徒数よりも少ないぐらいの規模です。学校の事業としてはまず勉強、そして生徒指導が２つの柱になると思うのですが、これに関しては少人数は強いと思います。といいますのが、一人一人の生徒の顔が見えます。なので、授業でも「この子どうなのかな。」というのが直接見ることができます、また、ＩＣＴ化が整ってきています。パソコンを上手に使うことで、これまでの業務を短縮することができます。そうすることで一人一人と接触できる時間が増えてくると思います。やはり生徒と接する時間が増えれば、生活指導面で良い効果がでてくることを実感しています。中学生は多感な時期ですので、ちょっとした表情が違うということや、或いは、それをいろんな先生が意見交換して生徒の状況を掴んでいくということが行われます。ＩＣＴ化が進んだことで、生徒との触れ合う時間に余裕ができているというところが大きな要因だと思います。

ただ、反面、クラス数で我々教員数を配置すると決まってきますので、生徒数が減りすぎると逆に、教員の余裕がなくなるっていう面が実際にはあります。教員は学校ごとにある研修部会や教務部会、生徒指導部会等の校務分掌に入ります。今の東中学校であればどこかの校務分掌１ヶ所に入るのですが、小規模校ではかけもちで入ることになりますので、そういう意味では負担は増えます。ただ我々は生徒と触れ合う時間を非常に大事だと考えていますし、それを望んでいます。そういう意味では少人数ということは本来の学校の活動の目的に合致しているのではないかと思います。

水本会長

ありがとうございました。片山副会長どうでしょうか。

片山副会長

以前大阪府教育委員会に在席していたころの話ですが、河内長野市は学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールに大阪府内でいち早く取り組んだということがありました。当時、国の流れでコミュニティスクールを取り入れていこうという機運がだんだん高まってきたときに、いったいどこの自治体が初めて取り入れるの

かと話題になっていたのですが、河内長野市が大阪府内でいち早く取り入れたということで先進的にやられたという記憶が鮮明にあります。学校運営協議会制度を学校教育の中核に据えて､今も実施されているということは河内長野市の特徴であり、これは続けていく価値のある事だと思います。

もう１つが小中一貫教育についても早くから取り組まれています。河内長野市のように歴史はないのですが、岸和田市教育委員会でも遅くなりましたが、数年前から小中一貫教育を進めていました。先ほど始業式が長い話が出てきましたが、そこは工夫していただいたらと思います。小学校、中学校は義務教育ですので６年間と３年間というふうに考えるのではなく、９年間１つのまとまりとして考え、児童生徒を最終的にどのように育てるかというところを目標にして考えていくべきだと思います。小学校の先生と中学校の先生がそれぞれ協力し合って、その目標を目指していくということが小中一貫教育の一番の良いところかと思います。教科書がある教科は発達段階に応じて書いてあるから、無駄がなく、きちんと網羅しているという部分では非常に良いと思います。しかしながら、総合的な学習の時間や特別活動のような教科書のない授業こそ、小中一貫教育で連携をとって実施されていると思います。しっかり連携をとっていれば小学校で１度学習したことを再度中学校で同じことを学ぶといったことや或いは抜けがあるといったことを防ぐことができます。

さきほど東委員から、何らかの次の方策を考える必要があるという発言がありました。また、中谷委員や上田委員からも、小学校と中学校では同じ義務教育の中ですが、やはり取り組み方も違うし、中学校の発達と小学校の発達を考えたときに、一定区別する必要があるというご意見もございました。特に中学校で切実なのは、学級数が減るとすべての教科に必要な先生が配置できないということかと思います。特に美術や技術のような持ち時間数の少ない先生の配置ができなくなり、兼務になるといったことが小学校と決定的に違うところだと思います。また、森委員から発言がありましたが、確かに学校の小規模化はデメリットがあるのですが、２つの小学校で合同学年会議をするといった工夫で、小小連携が進んだという話がありました。そのような事例から、工夫次第で新たな解決策を考え、小規模化のデメリットを乗り越えることができるのではないかと思います。また、小小連携は小中一貫教育を進めていく上で必ず必要なものです。一小一中であれば問題はないのですが、河内長野市では二小一中、三小一中の校区があります。小学校の横同士がどれだけ

きちんと足並みそろえて中学校に子どもたちを送り出すかということが重要でそういう意味では高向小学校と天野小学校の一例は非常に示唆にとんだ取り組みだと考えられます。

現行の「河内長野市学校のあり方の方針」を策定されたときから、さらに子どもの人数の減少が加速しているようです。そのため以前に決めたことを続けていくと困難なため、検討してほしいと教育委員会から諮問をいただきました。そういう意味では見直していく必要があると思います。皆さんのご意見を聞かせていただき、改定する際には小学校と中学校を区別するという考えのもとで協議していくことが必要でないかと思いました。

水本会長

ありがとうございました。皆さんの意見をいただく中で、学校の小規模化、児童生徒の少人数化はデメリットばかりではなくメリットの部分もあるとお聞かせいただきました。しかし、児童生徒の減少が今後もさらに進んでいくことになれば、子どもたちの学びの場をどのように確保していくのか、教育内容の充実をどのように図っていくのかということで言うと、弊害も出てくると考えられます。そのため今回の検討委員会があるわけですが、先ほどから委員の皆様の発言にありましたが、今後の方策や統廃合も含めた検討をしていく上で、小学校と中学校を分けて考えたほうがいいのではないかなという意見もございましたし、実際やはり一緒にはできないような学校運営上の問題もございますので、そういうふうな形で議論して参りたいと思いました。また今回、「河内長野市学校のあり方の方針」については、事務局からの説明からもございましたが、現在の方針を踏まえながら現在と未来の予測や、今後求められる教育についても考えて、現状に合わせたものに作り直していくという方針で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

委員

異議なし。

水本会長

異議なしということで、今後の会議の進め方ということで確認をさせていただきました。次回の会議につきましては、諮問書にあるとおり学校のさらなる小規模化

による学校施設への影響や、学校と地域との連携について確認した上で、検討して参りたいと思います。事務局では、小中学校統廃合や今後の方策を検討する上で小中学校を分けて考える制度のわかる資料、また、学校や地域との連携について小中学校の統合の考え方のわかる具体的な内容の資料についての作成をお願いしたいと思います。それでは最後に事務局から連絡事項ございましたらお願いします。

１０．その他

事務局（篠崎学校教育課長）

ありがとうございました。議論の中で、さまざまなご意見をいただけて非常に参考になっています。井上委員や米谷委員からご意見をいただいた部活動についても学校の小規模化のデメリットの１つにあげられるのかと思いますので、本市の方向性も含めて地域クラブのことについてどこかの機会でご説明させていただければありがたいと考えています。

１１．閉会

水本会長

では、これをもちまして、第１回河内長野市学校教育のあり方検討委員会を終わらせていただきます。皆さまどうもご苦労様でした。ありがとうございました。